

令和7年度外部評価会 集計表(農業者用)

所属名：北薩地域振興局農林水産部農政普及課

課題名② 肉用牛若手及び中核的農家育成による産地の維持						
項目	評価の視点	評価結果(人)			外部委員からの 意見・提言	意見・提言等に対する改善策や 普及指導計画への反映等
		適当	概ね 適当	要 改善		
課題の 設定	①農業者や地域が必要とする課題であるか	5			・現在の物価の高止まりの中、コスト低減対策に取り組んでいる	・現在の活動を継続して取り組む
対象の 選定	②課題に対して対象(農業者、地区)の選定は適切であるか	5				
活動体制・ 活動方法	③関係機関とうまく連携して活動しているか	4	1		・発育測定などを継続することで、技術力アップにつながると思う	・現在の活動を継続して取り組む
	④活動(活動方法、時期、手段)は適切であるか	5				
	⑤専門的な技術・情報を活用して効果的な活動が行われているか	5				
活動の 成果	⑥農業者や地域・産地等の育成や成長に効果が上がったか	3	2		・購入飼料費を抑えるため、春夏作やイタリアン、エンバクを勧めてほしい	・現在の活動を継続して取り組む
活動の 波及性と 改善	⑦他の課題や他農業者、地域への波及性があるか	4	1		・中核的農家を規模別に調査すると対策が明確になり波及性が高くなると思う ・今後、波及に期待したい	・引き続き各種研修会等により普及に取り組む
	⑧結果が十分でないものは今後の対策が考えられているか	4	1			

令和7年度外部評価会 集計表(関係者用)

所属名：北薩地域振興局農林水産部農政普及課

課題名② 肉用牛若手及び中核的農家育成による産地の維持						
項目	評価の視点	評価結果(人)			外部委員からの 意見・提言	意見・提言等に対する改善策や 普及指導計画への反映等
		適当	概ね 適当	要 改善		
課題の 設定	①課題は地域の農業振興上、重要な課題であるか	5			・畜産基盤の維持が課題。関係機関の連携がますます重要になると思う	・関係機関・団体と連携した取組を引き続き進めていく
対象の 選定	②課題に対して対象(農業者、地区)の選定は適切であるか	4	1			
活動体制・活動 方法	③関係機関と連携して活動しているか	5			・土壌診断についてはJAでも無料で実施しているので利用してください	・役割分担しながら取り組んでいく
	④活動(活動方法、時期、手段)は適切であるか	5				
	⑤専門的な技術・情報を活用して効果的な活動が行われているか	5				
活動の 成果	⑥農業者や地域・産地等の育成や成長に効果が上がったか	3	2		・本市における肉用牛経営者の支援を今後もお願いしたい ・省力化は大事なことであるが基本に忠実な管理をすることも必要。省力化、ICTの導入も規模に応じた選定を指導して頂きたい	・現在の活動を継続して取り組む
	⑦指導対象が積極的に課題解決にあたるようになったか	3	2			
活動の 波及性と 改善	⑧他の課題や他農業者、地域への波及性があるか	1	4		・他の課題発表を同じく地域への波及が進む取組を継続して実施して欲しい	・各種研修会等により引き続き普及に取り組む
	⑨結果が十分でないものは今後の対策が考えられているか	3	2			

肉用牛若手及び中核的農家育成による産地の維持

1 対象

肉用牛繁殖農家（新規就農者等を重点対象）

2 課題を取り上げた背景・ねらい

農業従事者の高齢化や経営の中止が進んでいることから、肉用牛産地を維持するために新たな担い手の確保・育成と新規就農者の技術・経営管理能力を向上する必要がある。

また、飼料等の生産資材価格の高止まりが続いていることから、自給飼料を安定的に確保し、購入飼料費の低減を図っていく。

3 活動の内容及び成果（令和5年度～7年度）

(1) 子牛の商品性・生産性の向上

子牛の発育調査や技術の実証、各種マニュアルの普及指導により、発育良好で商品性の高い子牛づくりを推進した。

新規就農した若手農家4戸を重点支援として、子牛の発育調査と飼養管理指導を行い、マニュアルに基づいた飼料給与体系の確立やICT機器の活用、高温対策等の飼養環境改善に取り組んだ。

令和6～7年に出荷された支援対象農家の去勢子牛は、前年までと比較して出荷体重が313kgから326kgに13kg増加し、市場平均との価格差は31千円向上した。

また、子牛育成技術の定着が図られるよう調査結果やマニュアル等について、飼養管理技術研修会等で波及を行った。

(2) 自給飼料の安定的確保

自給飼料に立脚した肉用牛繁殖経営を確立するため、土壌・飼料分析に基づく栽培指導や飼料増産体系を実証した。重点支援農家で、トウモロコシとソルガムとの混播や適品種の選定、水田裏作における秋冬飼料作物栽培のほか、ドローンによる水稻立毛中播種の実証に取り組んだ。

また、現地研修会等で実証結果や栽培技術を普及し、飼料増産を推進した。

地域の春夏飼料作物栽培面積は、3年間で6.6ha拡大して89.6haとなり、支援対象農家1戸は、直近6年間の購入飼料費上昇額を県内調査農家平均に比較して67%に抑えることができた。

(3) 就農希望者及び若手農家の経営定着支援

新規就農者を対象として、経営改善計画や簿記、経営分析、飼養技術を普及指導し、肉用牛経営の発展を支援した。新規就農者のうち1戸は、資金利用計画作成や青年等就農資金の活用を支援したほか、子牛育成技術や飼料作物の実証に取り組み、就農計画で目標とした規模・売上に到達した。

支援対象の新規就農者3戸が、就農計画に基づいて規模拡大を図っている。

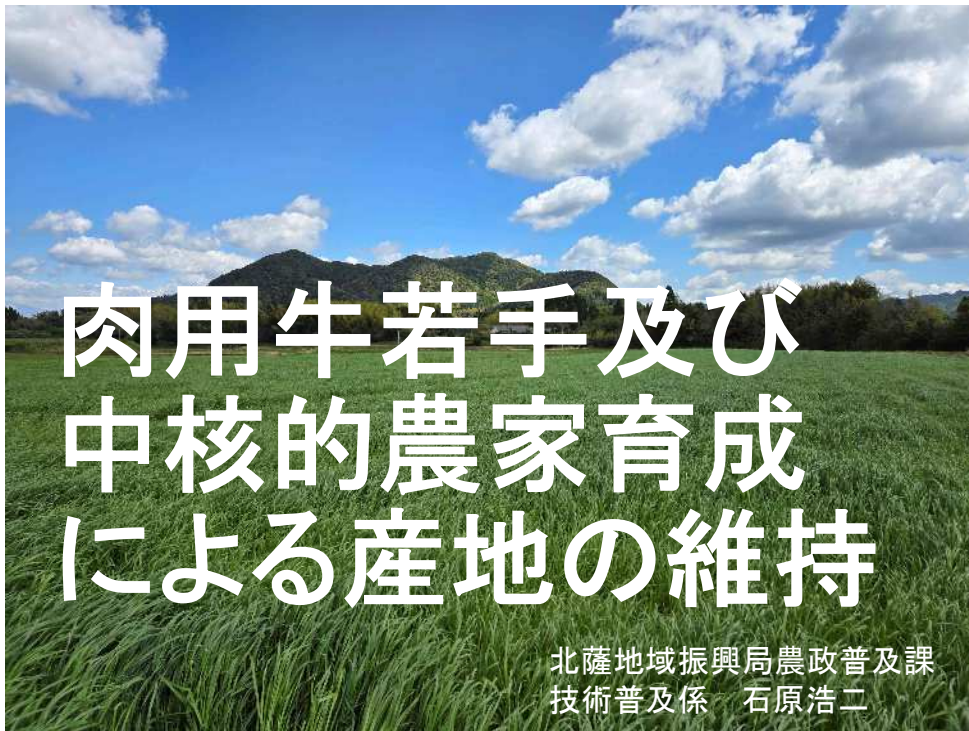
また、飼養頭数20頭以上の中核的農家は令和4年度の36戸から49戸に増加した。

4 残された課題

- (1) 健康で発育良好な子牛づくりと生産性の向上
- (2) ICTを活用した牛群管理システムの活用支援
- (3) 飼料生産の省力化や生産体制の仕組みづくり
- (4) 計画的な規模拡大と新規就農者確保の支援

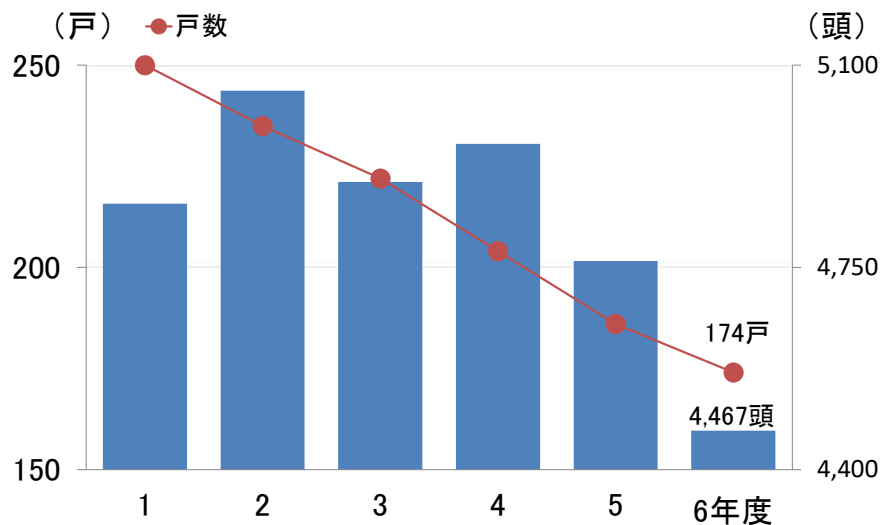
5 取り組んだ普及員

春日，石原



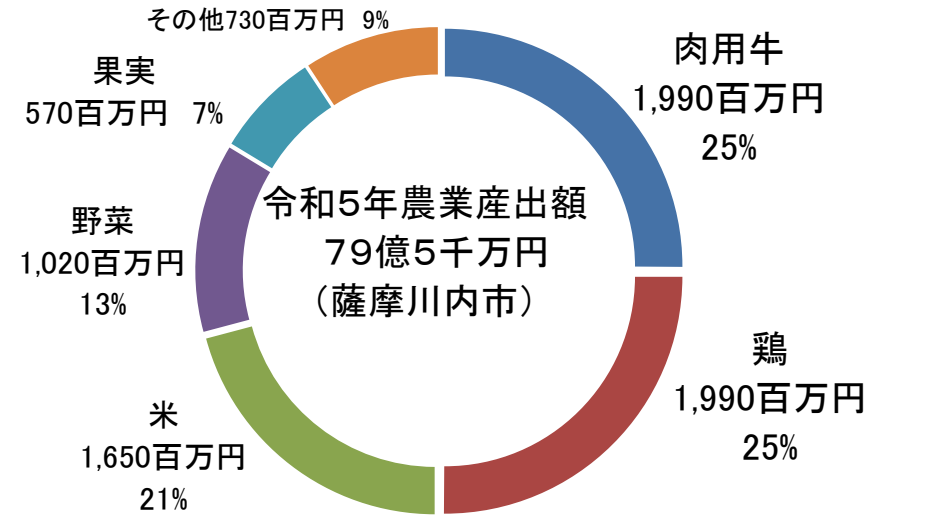
管内の現状

肉用牛繁殖 戸数40%減 頭数12%減



管内の現状

農業産出額 肉用牛3割



農林水産省統計資料より作成

管内の現状

地域の課題

対策

1 飼養頭数の維持・拡大

・繁殖雌牛導入関連事業の積極的活用
・高能力繁殖雌牛への更新推進等

2 子牛の商品性・生産性の向上

・飼養管理技術向上支援
・損耗防止, 家畜保健衛生の推進等

3 自給飼料の安定確保

・飼料畑や飼料生産機械の一体的整備
・省力・多収の栽培体系の確立等

4 肉用牛担い手の確保・育成

・融資, 補助事業, 価格安定制度活用
・経営管理技術支援等

普及指導事項 令和5～7年度(3年間)

1 子牛の商品性・生産性の向上

2 自給飼料の安定的確保

3 肉用牛新規就農者の確保・育成

畜産普及の活動1

1 子牛の商品性・生産性の向上

子牛の出荷・取引状況

令和5年薩摩中央家畜市場(去勢) (県平均との差)

・平均日齢	281日	(+10日)
・平均体重	312kg	(+15kg)
・日齢体重	1.11kg	(+33 g)
・平均価格	632千円	(+21千円)

※ alic集計, 価格は消費税込

特 徴

- 県平均に比べ出荷日齢や体重が大きく, 日齢体重も大きい
- 売上単価が県平均より高い
- 去勢・めす合計の売上単価は, 県内市場で最高

関係機関との連携体制

技術員連絡協議会 畜産部会

薩 摩 川 内 市

北さつま農業協同組合

農業共済組合北薩支所

北薩家畜保健衛生所

北薩地域振興局農政普及課

- ・畜産職員会(毎月)
- ・巡回調査・指導
- ・飼養管理研修会
(認定農業者組織,
和牛振興会, せり出荷者)
- ・個別経営相談
- ・飼養衛生管理指導

畜産普及の活動1 一子牛の商品性・生産性の向上

普及指導目標

飼養管理技術や各種マニュアルを普及し, 発育良好で商品性の高い子牛づくりを推進する。

特に, 就農した若手を普及指導の重点対象として活動。

- 飼養管理改善による発育(日齢体重等※)の向上
- 子牛市場における販売単価UP

※ 体重÷日齢で算出した値。発育の程度を示す指標

畜産普及の活動1 一子牛の商品性・生産性の向上

活動内容

(1) 子牛発育調査・指導

構成 技術普及係, 畜産振興係, 薩摩川内市

- 飼養管理, 衛生管理指導
- 飼養マニュアルの普及
- 子牛せり市況分析 等



(2) 技術実証の設置・調査

- 子牛育成飼料給与マニュアル
- 細霧, 遮光, 断熱等による夏季の高温対策
- ICT機器を活用した管理

畜産普及の活動1 一商品性向上の重点指導事例一

指導内容 調査結果確認, 対策検討

子牛発育調査・検討資料

農家名

性別	名号	個体識別番号	母	生次	父	2代祖	3代祖	生年月日						
めず		82459	みよこ		梅草雄	幸紀雄	安福久	R6.12.5						
調査日	生後日齢	目標	体高	目標	体重	胸囲	腰囲	DG	目標体高	せり予測 残日	体重	せり日 日齢	9月11日 280	10月7日 306
R7.1.28	54	83.2	79.6	65	66	92	96	1.22		226	342			
R7.3.10	95	91.7	93.6	100	100	106	116	0.83	1.05	185	295			
R7.3.27	112	94.7	96.0	118	118	112	125	1.06	1.05	168	295	100日齢目標 胸囲110cm		
R7.5.1	147	100.4	101.4	154	153	122	145	1.00	1.04	133	291			
R7.5.30	176	104.5	104.0	185	202	134	157	1.69	1.15	104	321	DG目標 1.10 1.00		
R7.6.24	201	107.6	106.0	211	212	136	160	0.40	1.05	79	295			
R7.7.29	236	111.5	107.0	248	240	142	171	0.80	1.02	44	285	7/29日齢 35日経過 110cm 251kg		
										8/9日齢すぎの予と半量食分け				



■ 目標体重への到達度, 増体重の確認, 出荷予測体重

畜産普及の活動1 一商品性向上の重点指導事例一

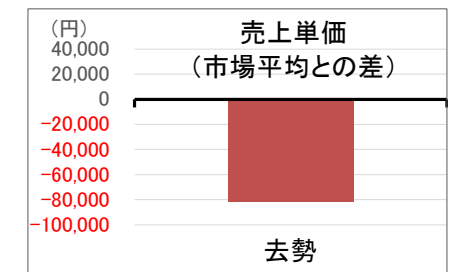
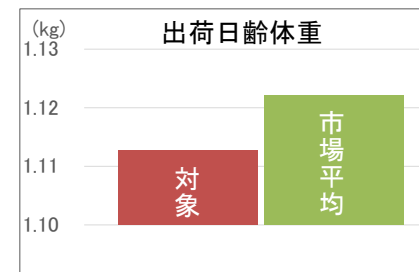
重点支援事例

支援対象 新規就農者等 4戸

対象農家の課題

- 出荷日齢体重が小さい
→ 発育の向上
- 売上単価を伸ばしたい
→ 購買者の求める子牛

R4出荷 去勢



畜産普及の活動1 一商品性向上の重点指導事例一

改善1 採食量を高める飼養管理



■ 各種マニュアルを基本にした管理

■ 牛房内の子牛が一斉に採食できる飼槽を確保

畜産普及の活動1 一商品性向上の重点指導事例一

改善2 ICT機器活用, 飼養環境改善



■ 分娩予兆検知システム
MOOVIE(モービー)
ファーマーズサポート(株)

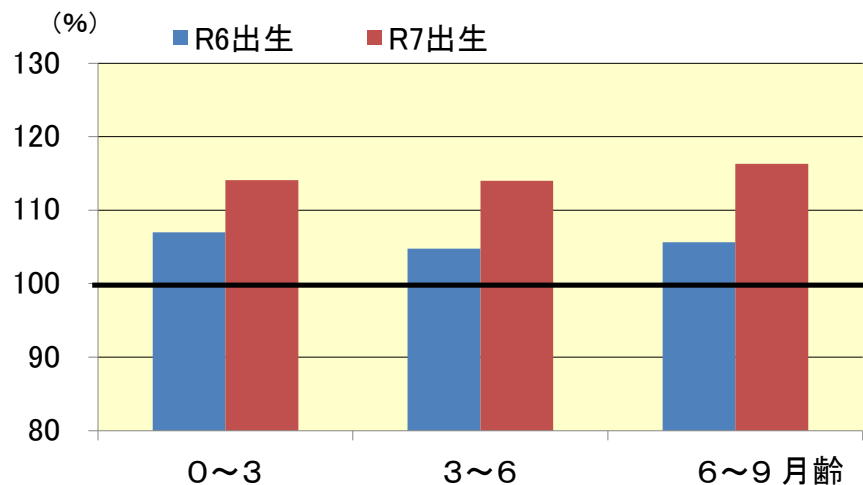


■ 寒冷紗等による高温対策

畜産普及の活動1 一商品性向上の重点指導事例一

飼養中の子牛の体重変化(A農場)

※目標値に対する比率



畜産普及の活動1 一商品性向上の重点指導事例一

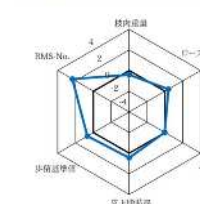
改善3 ゲノミック育種価の活用

めす子牛の能力を評価, 繁殖向けの保留判断など

ゲノミック評価成績報告書

一般社団法人 家畜改良事業団

飼育者氏名	鹿児島県
申込者	和牛ゲノミック評価活用協議会
性別	雌
登録番号	
母	
父	
子	



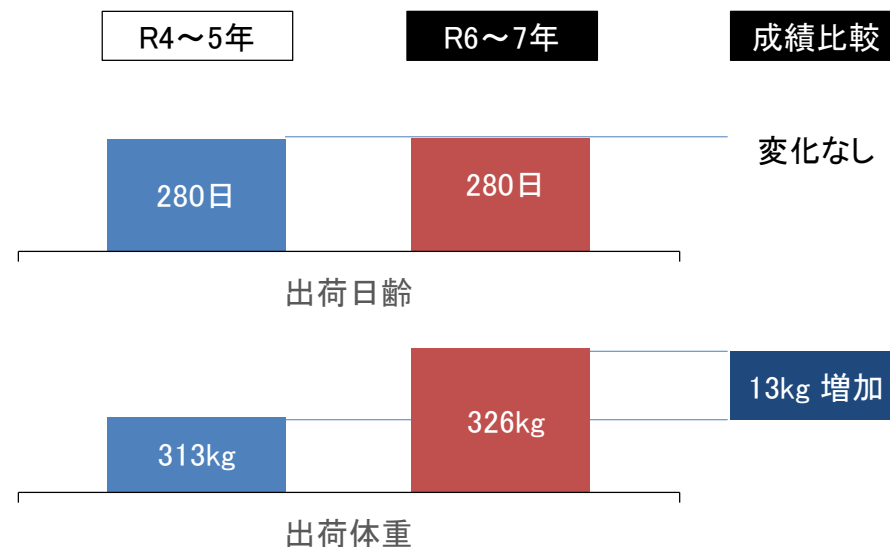
項目	検内順位	ゲノミック評価	ゲノミック育種価
区分	C	B	C
ゲノミック育種価	14.068	2.728	0.011
ゲノミック育種価	70.569件	SNPデータ数: 199,877件	



■ 薩摩川内市認定農業者部会研修で学ぶ

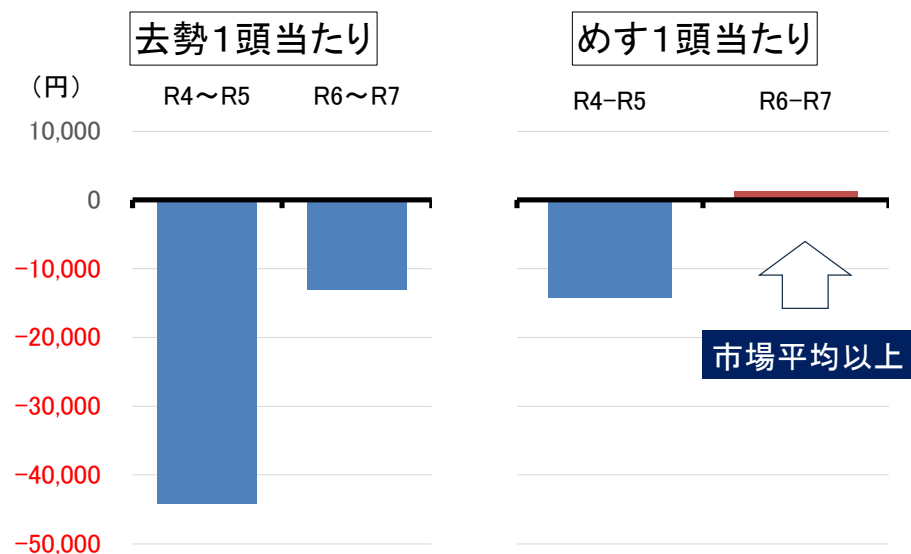
畜産普及の活動1 一商品性向上の重点指導事例一

指導結果 出荷体重(去勢)の向上



畜産普及の活動1 一商品性向上の重点指導事例一

指導結果 売上単価（市場平均との差）



畜産普及の活動1 一商品性向上の重点指導事例一



■ 対象農家, 指導農業士, JA, 市, 振興局で取組実績を検討

畜産普及の活動1 一子牛の商品性・生産性の向上一

(3) 肉用牛飼養管理研修会 ～地域への技術普及～

- 子牛発育調査結果の検討
- 子牛育成マニュアルに基づく飼養管理改善
- ICT機器の活用推進
- 細霧装置, 遮光等による高温対策
- ゲノミック育種価の活用
- 肉用牛の改良と適正交配

畜産普及の活動1 一子牛の商品性・生産性の向上一



肉用牛飼養管理研修会

2 自給飼料の安定的確保

飼料作物の栽培状況と課題

【畑】 夏作の飼料栽培が少ない。夏季は野草利用が多い状況

夏作飼料 (30ha) 冬作飼料(164ha)

利点 野草利用で、播種に係る費用・労働力を軽減

【水田】 夏作と冬作の栽培面積が同程度。

水田夏作・WCS用稲(315ha) 水田冬作飼料(339ha)

課題 夏季の畑地栽培と冬季の水田裏作栽培を拡大

普及指導目標

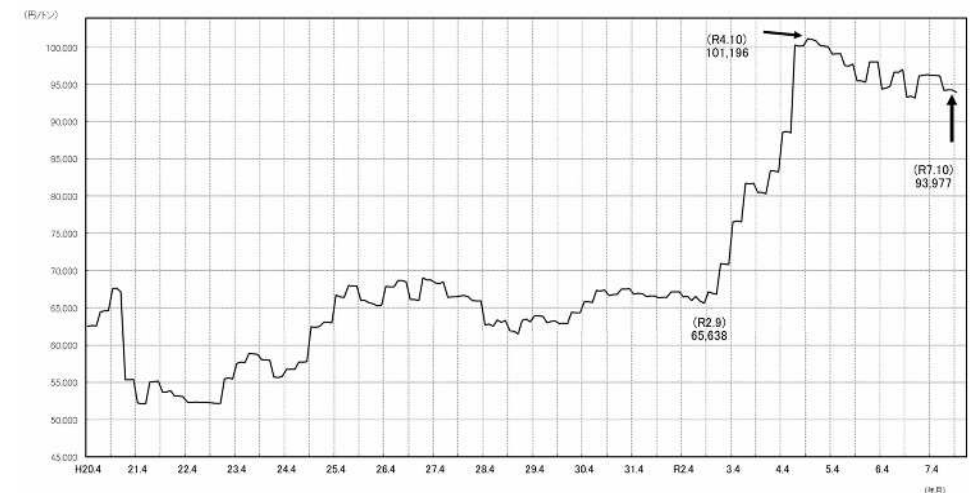
生産コスト低減や自給飼料不足などを課題としている農家に「自給飼料増産体系」を普及し、自給飼料に立脚した肉用牛経営の確立を支援する。

- 飼料等の生産資材価格の高止まりによるコスト高
- 自給飼料生産割合の低い農家の存在



- 飼料栽培面積の拡大
- 自給飼料の増産による購入飼料費の低減

配合飼料価格の推移



活動内容

(1) 土壌・飼料分析に基づく高収量・高品質栽培の指導

土壌分析 23件 138項目
→ 石灰が不足する傾向

飼料分析 57件 226項目
→ CP(粗蛋白質)の低値が散見

(2) 飼料増産体系の実証

- ・春夏作 ソルガム, ミレット類等
- ・秋冬作 エンバク, ライグラス等
- 実証数 14草種・品種



畜産普及の活動2 ー自給飼料の安定的確保ー

重点支援事例

支援対象 肉用牛繁殖 40頭規模
飼料12ha(トウモロコシ, ソルガム, WCS用稲等)

課題

- ・ 飼料増産, 飼料コスト低減

支援内容

- ・ 増収に向けた適草種の選定
- ・ 水田の飼料生産拡大
- ・ 飼料栽培の省力化
- ・ 飼料生産コストの低減



畜産普及の活動2 ー自給飼料の安定的確保ー

実証 夏作増産の適草種選定

トウモロコシとソルガムとの混播
(スノーデント115, ハイグレインソルゴー)



	生草収量 (10a)	CP	TDN
トウモロコシ ソルガム	9.4 t	7.3%	72.1%
ソルガム再生	6.1 t	—	—
(比較) スーダングラ ス(2回刈り)	10.0 t	—	—
(比較) トウモロコシ 標準	—	7.7%	70.5%

播種日 令和6年3月31日
収穫日 令和6年7月17日, 10月5日

畜産普及の活動2 ー自給飼料の安定的確保ー

実証 夏作増産の適品種選定

ソルガム新品种の試験栽培(R7)



播種日 令和7年8月10日
収穫日 令和7年10月30日 生草収量 6t/10a

畜産普及の活動2 ー自給飼料の安定的確保ー

実証 水田飼料の生産・利用拡大



- WCS用稲を低水分で調製
- 子牛の飼料にも利用

- 水田裏作でエンバク・ライグラス混播

畜産普及の活動2 ー自給飼料の安定的確保ー

〔取組中〕 水田裏作の拡大と省力的栽培の推進

ドローンを活用した水稻立毛中播種の実証



スマート畜産研修(9月)
(ドローン播種実演)



エンバク初期生育(12月)

畜産普及の活動2 ー自給飼料の安定的確保ー

(3) 現地研修会 ～飼料増産の推進, 地域への普及～



ニューファーマー基礎講座(7月)



生産者研修会(2月)

■ 飼料栽培面積(春夏作)

令和4年 83ha → 令和7年 89.6ha **6.6ha拡大**

■ 購入飼料費(支援対象農家)

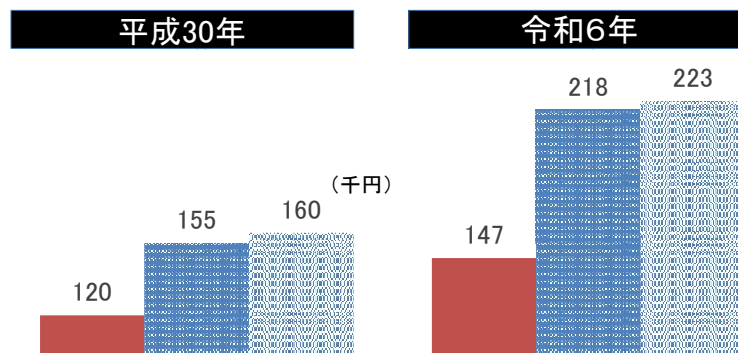
県内平均(R5調査 29戸)比 **67%**

畜産普及の活動2 ー自給飼料の安定的確保ー

支援結果 上昇する飼料コストを抑制

購入飼料費
(繁殖牛1頭当り)

■ 対象農家 ■ 県内調査平均 ※ 国内生産費調査



上昇額

■ 対象農家 27千円

■ 県内調査平均 63千円

※県内調査は令和5年(29戸)
※国内生産費調査は子牛生産1頭当

畜産普及の活動3

3 肉用牛新規就農者の確保・育成

担い手の現状と課題

・中核的農家(20頭以上の規模)

令和4年度 36戸(全戸のうち17%)

○ 産地発展のため, 新規就農者の確保・育成が一層必要

普及指導目標

経営計画・簿記・分析等の経営管理を, 基本的な飼養技術と併せて普及指導し, 肉用牛経営の発展を支援する

■ 新規就農者の経営改善計画作成・実行

■ 中核的農家の増加

活動内容

(1) 基礎講座, 助言・指導



- 基礎的な知識・技術の習得。指導農業士による助言・指導等
- 肉用牛の指導農業士を新たに2人認定

畜産普及の活動3 一肉用牛新規就農者の確保・育成一 新規就農からの経営発展支援事例

4年 畜舎等を継承し, 施設整備の負担を軽減

経営改善資金利用計画の作成支援

技術指導

5年 子牛育成技術, 人工ほ育技術

青年等就農資金(公庫貸付)

8,167千円 畜舎改築, 繁殖雌牛5頭

新規就農からの経営発展支援事例

2年 就農相談, 就農計画の作成・認定
経営を継承し, 薩摩川内市に就農



経営規模11頭 目標 17頭

畜産普及の活動3 一肉用牛新規就農者の確保・育成一

青年等就農資金(公庫貸付)

6年 6,858千円 繁殖雌牛6頭, 堆肥舎等

技術・経営管理指導

複式簿記指導, 経営分析

飼料作物実証, 自給飼料生産研修

7年

	飼養頭数	売上高	所得
就農計画目標	17頭	858万円	164万円
実績	25頭	900万円	

就農計画の目標所得を目指し, 経営発展中

(2) 新規就農者への一体的支援

農家	当初 規模	拡大後	
		規模／売上高	時期
A	11頭	25頭／ 9百万円	令和2年～7年
B	0頭	40頭／ 23百万円	令和4年～7年
C	0頭	20頭／ 9百万円	令和3年～7年

■ 経営改善計画作成・実行

3戸
(計画に基づく規模拡大)

■ 中核的農家(20頭以上)

36戸 → 49戸(R7)

1 子牛の商品性・生産性の向上

- 体重 313kg → 326kg 13 kg 増加
- 市場価格差 △44千円→△13千円 31千円 向上

※ 対象新規就農者(去勢出荷子牛)

2 自給飼料の安定的確保

- 飼料栽培面積(春夏作) 6.6ha 拡大
- 購入飼料費※ 67% コスト安

※ 対象農家と県内調査農家との比較

3 肉用牛新規就農者の確保・育成

- 就農計画に基づき規模拡大中 3戸 (25～40頭規模)
- 中核的農家(20頭以上) 36戸 → 49戸

今後の課題と取組

- 1 健康で発育良好な子牛づくりと生産性の向上
- 2 ICTを活用した牛群管理システムの活用支援
- 3 飼料生産の省力化や生産体制の仕組みづくり
- 4 計画的な規模拡大と新規就農者確保の支援